

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	東京都
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	台東区立桜橋中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	0	9	22
生徒数	114	94	106	0	314	

研究の概要

1. 研究主題

<p>・主題(テーマ) 指導形態を工夫することにより「確かな学力」の定着を図る ～ ティーチングアシスタント、放課後学習チューターの活用を通して ～</p> <p>・主題設定の趣旨 学力低下が問題視されている昨今、本校生徒の実態を見た時、授業に対する学習意欲の欠如や、家庭学習が明らかに不足している生徒がいる。 そこで、個別指導を徹底し、学校内において放課後の学習環境を整えることにより、基礎・基本の定着を図り、自ら学び自ら考える力を身に付けることで、生徒の自己実現に向けての学習意欲の向上を図ることをねらいとした。</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>通常授業(1・2・3年生 数学)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数学は、習熟度の差が顕著に見られる教科である。</li> <li>数年間にわたり、教科としてチーム・ティーチングを実践しており、生徒も複数の教師が授業に関わることに違和感を感じていない。</li> <li>ティーチングアシスタントによるチームティーチングを行っている。</li> <li>定期考査は行わず、普段の授業の中に小テスト、単元別テスト、復習テスト等を適宜取り入れる実践を行っている。</li> </ul> <p>選択教科(2・3年生 国語・数学・英語)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種検定試験合格に向けた、学習を進めている。</li> <li>目標が明確であり、ティーチングアシスタントを活用し、個に応じた少人数指導を実施している。</li> </ul> <p>学年としての取り組み(2年 国語・数学・英語)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年として習熟度別学習に取り組んでいる。</li> <li>教科担任と連携し、クラス分けを行う。</li> </ul> <p>放課後学習(1・2・3年生 国語・数学・英語)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>放課後学習チューターによる「補充・発展学習」を行っている。</li> <li>保護者に通知し希望者を募り、本人の学習に対する意欲に少しでも答えられるように取り組んでいる。</li> </ul>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>指導形態を工夫することにより「確かな学力」の定着を図る ～ティーチングアシスタント、放課後学習チューターの活用を通して～</p> </div> <p>この主題にせまるために、今年度は、とにかく実践を積み重ねることを重視する。 研究の見通し 実践を通して抽出生徒の追跡調査等により、問題点や課題を明確化し、推進していくべき内容や方法を見出す。 研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「基礎・基本」の明確化</li> <li>2 「確かな学力」の明確化</li> <li>3 実態把握（アンケート調査実施・分析、習熟度確認テストの分析）</li> <li>4 指導形態の工夫 通常授業でのチームティーチングや少人数授業に、ティーチングアシスタント（大学生）を活用し、個別指導の充実を図る。 2・3年生の選択授業では、英語・漢字・数学等の各種検定合格に向けた学習を進め、ティーチングアシスタントを活用し、目標（検定級）に合わせた少人数指導を実施する。 第2学年では、学年の時間を利用し、教科担任と学年・学級担任が連携し、ティーチングアシスタントも活用しながら、習熟度別学習指導を行う。 放課後学習チューター（大学生）による「補充・発展学習」を行う。</li> </ol>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>指導形態を工夫することにより「確かな学力」の定着を図る ～ティーチングアシスタント、放課後学習チューターの活用を通して～</p> </div> <p>今年度の実践を踏まえ、さらに積み重ねることにより、基礎・基本の定着を図り、自ら学び自ら考える力を身に付けることで、生徒の自己実現に向けての学習意欲の向上を図る。 研究の見通し 問題点や課題を克服し、テーマに迫るべく研究を推進していく。 研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 講師の依頼 講師を依頼し、本校の実態に即して研究の進むべき方向性を継続して指導・助言していただく。</li> <li>2 小学校・家庭との連携 実態調査をもとに、家庭との連携を図り、公開授業や小中連絡会等により、小学校との連携を図る。</li> <li>3 指導形態の工夫 継続してティーチングアシスタント（大学生）を活用する。 継続して選択授業として、各種検定に向けた学習を進める。 継続して放課後学習チューター（大学生）を活用する。 朝学習の時間や総合的な学習の時間等を利用し、習熟度に応じた学習を学校全体で計画的に実施する。</li> </ol>
--------	---

### (3) 研究推進体制

- ・ 文部科学省の「放課後学習チューター実践校」として、東京都の「ティーチングアシスタントモデル事業校」として、また台東区の「大学生が先生」実施校として、多くの人材（大学生）が派遣されている。  
(東京都のティーチングアシスタントは平成15年度のみ)

### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

- 1 「基礎・基本」の明確化  
国語、数学、英語に関して、「基本」と呼ばれる内容を改めて確認した。
  - ・ 国語 ... 読書、漢字、基本文法
  - ・ 数学 ... 基礎計算（公立入試問題が目安）
  - ・ 英語 ... 単語、基本例文
- 2 「確かな学力」の明確化
  - ・ 基礎学力の定着
  - ・ 学ぶことへの意欲
  - ・ 自分で考える力、判断する力
  - ・ 自分を表現する力以上の四点を、本校が目指す「確かな学力」とした。
- 3 実態把握（アンケート調査実施・分析、習熟度確認テストの分析）  
「生活実態調査」および「家庭学習状況調査」を作成し、全校生徒を対象に実施し、分析した。その結果、以下のような生徒の実態を把握することができた。
  - ・ 全校生徒の5人に1人（20％）は、朝食をとらずに登校する。
  - ・ 毎日、テレビを3時間以上見ている生徒が1年生で60％、2年生で55％でいる。
  - ・ 家庭学習をほとんどしていない生徒が、1年生が6割弱、2年生が4割弱、3年生で4割強いる。
  - ・ 全体的に「やればできる。できるようになりたい。」という思いは強いが、実際には「できるための努力は、あまりしていない。」という結果である。「やればできる。」と思っている生徒の多くは、やや基礎学力に欠け、「できるようになりたい。」と思っている生徒の多くは、ある程度の学力がある生徒と推測される。
- 4 指導形態の工夫  
生徒の自己評価による習熟度に応じた少人数指導（第1学年数学）では、基礎・標準・発展の3クラスに分け、比較的人数の多くなるクラスに、担当教諭とティーチングアシスタントがついて指導した。  
生徒自身に毎時間「自己評価カード」を記入させ、充実度と理解度を評価させているが、おおむね好評である。一斉授業や全員の前では質問のできない生徒も、自分から質問し、意見を言う場面が多くなった。  
第2学年において、学年の時間を利用し、国語、数学、英語の習熟度別学習に取り組んだ。学年や学級担任として、生徒の基礎学力を把握することができた。  
検定選択の時間にティーチングアシスタントを活用し、生徒個々の目標（検定級）に合わせた少人数指導を実施することで、生徒の取り組む姿勢に変容が見られた。生徒の受験率、合格率は上昇している。  
放課後チューター（大学生）による「補充・発展学習」は、実施内容や方法等を含めて、現在実施している中で模索中である。

## 2. 今後の課題

40名を超えるティーチングアシスタント(大学生)が、毎日のように入れ替わり、時間によって違う学生が授業にはいる。このため、以下のような課題を抱えている。

- ・ ティーチングアシスタント担当の教員がまとめているが、一人では把握しきれなくなっている。学生との連絡も不定期になりやすく、個々にメール等で連絡を取っている状況にある。
- ・ 教職員全体としては、一覧表により確認できる状態にあるが、日々の生活の中で、誰がいつ来ているのか把握できていない状況にある。
- ・ 学生の都合に合わせて、来校する曜日や時間が決められているため、授業内容に関する打合せの時間が確保できない。また、大学の授業や教育実習、試験等により来られない日もあるため、授業内容に合わせた効果的な活用の仕方に苦心する。

チームティーチングや少人数指導に対する教科担任同士の打合せや、教材開発にかかる時間を十分にとることができない。

長期休業中の時間などを有効利用し、年間を見据えた計画的な実践を行っていく。

生徒に対し放課後の学習に積極的に参加するよう呼びかける反面、放課後の部活動等にも積極的に取り組むよう促している。

学習とそれ以外の活動とが両立できる様、適切な時間や場面の設定が必要である。

放課後の学習に参加する生徒は、学習に対して比較的意欲的な生徒である。

しかし、ぜひ参加してほしい基礎学力が定着していない生徒の多くは、放課後学習に参加しようとする意欲に欠ける。また、担任等の勧めにより参加はしてみたものの、集中し継続的に取り組むことがなかなか難しい。

今後このような生徒が、いかに意欲を持ち、授業や放課後の学習に積極的に取り組めるようになるかが課題である。

そのためには、普段の授業で「わかる喜び。できる喜び。」を少しでも感じることができ、そのことが意欲につながるように授業形態や授業内容を工夫、改善していく必要がある。

校内において、研究体制の充実や組織的な研究推進を図り、本校のフロンティア研究の成果と課題をより明確にし、取り組みを実践していく。

そして校内での取り組みを広く校外へ発信し、理解と協力を求める。学校と家庭、地域や小学校等との連携をより一層深め、お互いの立場でできることを実践していく。

### 学力把握のための学校としての取組

東京都が行う「児童・生徒の学力向上を図るための調査」や台東区で実施している「習熟度確認調査」等の結果を分析する。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- \* 学年便り等で、校内での取り組みを広く紹介している。
- \* 小中連携のための連絡会、学校評議委員会等で、本校の取り組みについて説明している。
- \* 平成16年2月10日 台東区研究主任研修会で説明会を実施。
- \* 平成16年度、桜橋中学校のホームページに掲載予定。

~~~~~  
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                       10～12学級  
                                  13～15学級                    16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T.Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】               国語               社会               数学               理科  
                                  外国語            音楽               美術               技術・家庭  
                                  保健体育       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無